

インマヌエル中目黒キリスト教会
聖日礼拝2007.8.5.

メッセージ

ローマ書連講41

『上に立つ権威に従う』

ローマ人への手紙13章 1～7節

竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙13章1～7節

1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。

2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにもとむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。

3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なうときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者からほめられます。

4 それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。

5 ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。

6 同じ理由で、あなたがたは、みつぎを納めるのです。彼らは、いつもその務めに励んでいる神のしもべなのです。

7 あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい。みつぎを納めなければならぬ人にはみつぎを納め、税を納めなければならぬ人には税を納め、恐れなければならぬ人を恐れ、敬わなければならぬ人を敬いなさい。

ローマ書連講41

メッセージ

『上に立つ権威に従う』

ローマ人への手紙13章1～7節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。」

(ローマ13:1)

はじめに

1. 13章前半の流れ：愛の実践の一部で、
12章後半の「愛敵」の続き

2. 当時の政治状況

①ローマ帝国の確立期で

27BC—14AD アウグスト

12—37 ティベリウス

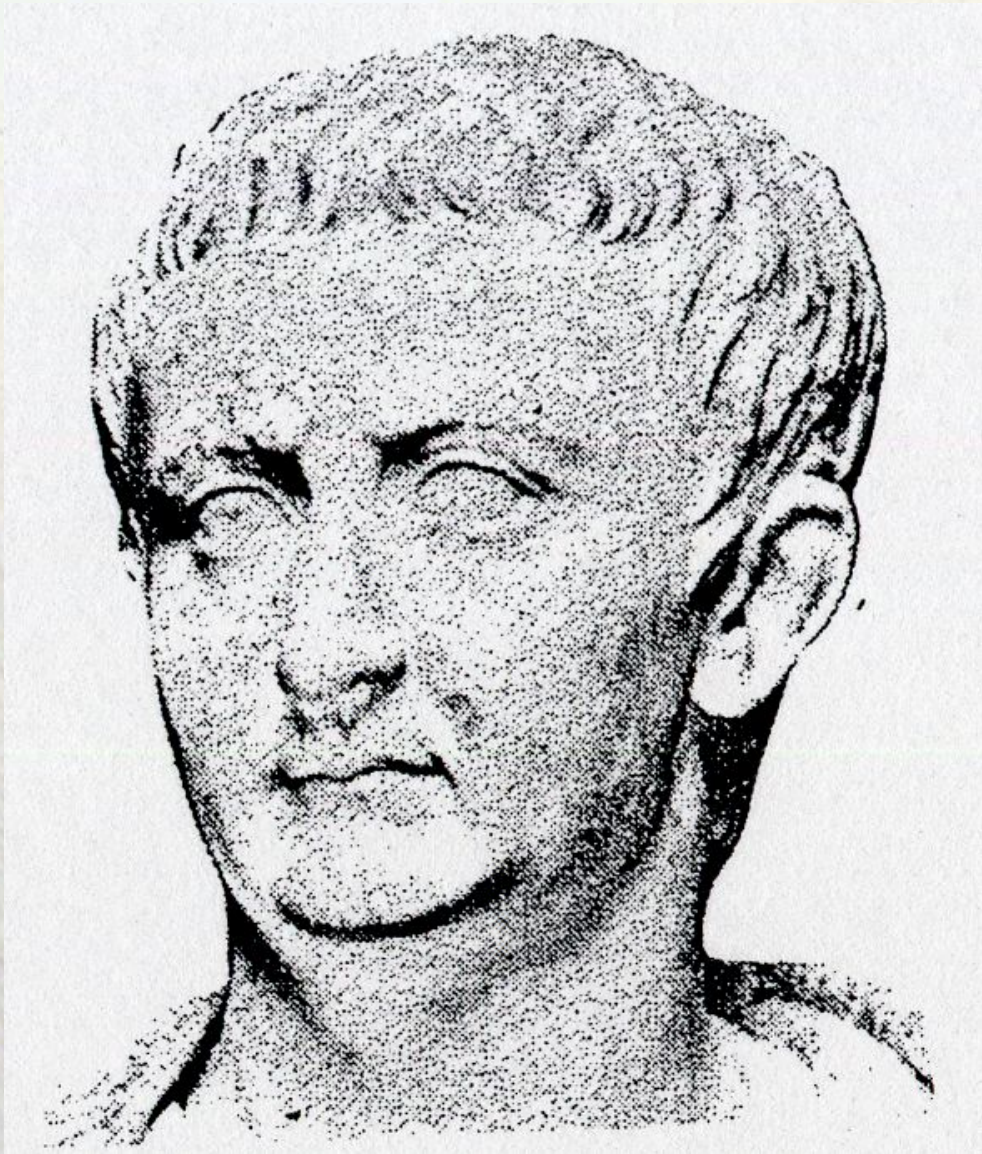
37—41 カリグラ

41—54 クラウディオ

54—68 ネロへと続く「ローマの平

和」時代

②宗教的には、ユダヤ教を含む地域宗教への寛容が基本だが、皇帝礼拝を拒む動きには非寛容



ティベリウス帝
(14～37)



クラウディオ帝
(37～54)



ネ口帝
(37-54～68)

3. 神学的に言えば：

政治と宗教を別次元と考えずに、クリスチャンに対して現実政治に真正面から向き合うように勧める

A. 権威に従う(1-5節)

1. 上に立つ権威とは：

①一般的には、あらゆるグループのリーダー

②限定的には、ローマ皇帝と政府

*このころ

50AD クラウディオ帝によるローマ在住のユダヤ人退去命令（使徒18:2）

反キリスト教的なネロの即位

56 ローマ人への手紙執筆

<ローマ帝国の政策にクリスチャンが悩んでいた時期>

2. なぜ従うのか

非常に消極的に見える勧めだが、その理由は？

- 1) 権威は神が立てられた（許容的御心）
- 2) 逆らうものは神（の定め）に逆らうことになる
- 3) 応報的な秩序が大切
（1ペテロ2:13-15も参照）

4) 自分の良心のためでもある

*良心に従って、不服従と抵抗を示すべきときもある

①宣教の自由を拘束されたとき (使4:19)

②良心に逆らう行動を強要されたとき

(ヘブル11:23)

③国家が、明らかに反神的な姿勢と行動を取るとき (ダニエル3:18)

B. 模範的市民として(6-8節)

1. 納税の義務を果たすこと
(マルコ12:17参照)
2. 良き市民としてすべての人に
当然の義務を果たすこと

C (信仰者と政治について) 考えるべきこと

1. 政治権力に対して、クリスチャンは受身一方ではない (1コリント6:2)
2. 国家権力が潜在的に持っている悪魔性について警戒すべき
(エペソ6:12、使徒4:27)
3. 権力者達のために祈る大切さ
(1テモテ2:1)

終わりに

1. 良き市民としての証を立てよう
2. 国のために祈ろう